

・顔現主日

泉のほとり

今月の詩編「第五十二編」

力ある者よ、なぜ悪事を誇るのか。

神の慈しみの絶えることはないが

お前の考えることは破壊をもたらす。

舌は刃物のように鋭く、人を欺く。



愛のはじまるところ

主イエスがお生まれになった時、ユダヤを治めていたヘロデ王のところに、東の国から博士たちがやってきました。ユダヤの王が生まれたという話を博士から聞いたヘロデは、「見つかったら知らせしてくれ。わたしも押みに行くから」と言つて、博士を送り出します。

ところが、博士たちは、夢で「ヘロデのところへ帰るな」というお告げを聞いて、ヘロデのところへ寄らずに自分の国へ帰つてしまいました。それを知つたヘロデは怒り、ベツレヘムとその周辺の二歳以下の男の子を一人残らず殺してしまいました。

ヘロデは自分が王であるために、絶えず人を殺し続けた人です。正義になると、自分の世界を造つて、自分の思つた通りに生きることが出来ます。ヘロデは自分が王であり続けるために、自分の願いを邪魔する人を殺していきました。

わたしたちはヘロデのように人を殺すことはありません。でも、ヘロデのように、自分の願ひ通りに生きたいといつも思ひます。自分の願ひに反することを言う人がいたら、腹立たしくなつたり、その人はいない方がいいと思つたり、自分の願ひを妨げる事は起きてほしくないと思ひます。けれども、突然、自分の願ひを邪魔するようなことが起きることがあります。

教会でお葬式をする度に、不思議だと思ふことがあります。ある時突然、家族が倒れて、そこから長い入院生活や、家で寝たがりの生活が始まります。本人にとつてもご家族にとつても、思つてもいかなかったような、できれば避けたい、終わりのない生活です。愚痴を言いたくなつたり、逃げ出したくなつたりすることもあつたかもしれせん。

ところが、看護を続けてこられた家族が亡くなられたとき、遭されたご家族の方が一番はじめに仰ることは、本当に幸せだったとか、お金に換えられない恵みをいただいたと、穏やかな笑顔で仰るのです。

本当に人を愛して、一緒に生きようとする、自分の願つた通りの生活ができなくなります。愛することは、疲れたり、苛立つたり、本当に大変でいやなことです。ヘロデは、自分にとって邪魔な人はすべて殺してしまいました。ヘロデの姿は、わたしたちの姿です。

でも、主イエスが教えてくださった愛は、邪魔な人間を引き受けることです。愛するというのはいやなことでも、そこに踏み込んでいつかときに、本当の愛が始まることを、主は教えてくださいました。

主イエスは本当にいやなことを引き受けてくださいました。それが主イエスの十字架です。

忘れぬように

わたしの別れの時・・・

(第二テモテ四・六)

永遠なる神よ、

我らがこの書を聞くとき

我らが死なねばならぬことを、

思わせてください。

我らが高ぶってはならぬことを。

恵みを受ける際に

我らを心低くしてください。

とりわけ説き明かし、

説教する人たちのために

我らは祈る。

彼らがあなたの言葉を

失うことのないようにと。

総ての人間の記憶からわたしが消し去られてもかまわない、わたしの働きの実が無に帰

さないのならば。わたしはこれまで教会のため

に、心から真の熱意をもって働いてきたし、

この生の目的から、どんな妄想も悪意も瞬時

たりとて逸れさせることはない。ただ、わた

しには、敬虔な人々の愛と教えにおける互い

の一致が、この上ない慰めです。我々は日ご

とに死の剣にさらされているので、わたしは

あなたに我々の町と教会のために執り成すこ

とを勧めます・・・

(ターフィット・ヴェーター牧師へのカルヴァ

ンの書簡)

R・ポーレン著 「祈る」より

今日のお知らせ

○今日は新年礼拝です。礼拝後、ホールで教会学校の餅つきがあります。

○教会学校が終わってから、引き続きホールで、有志による餅つきを行います。

○餅つきが終わってから、クリスマス装飾の片付けを行います。お時間のある方は、どうぞよろしくお願い致します。

○来週の第二礼拝は成人式礼拝です。群れの中で成人を迎えた人たちのお祝いをします。

○今週九日(水)から朝と夕べの聖書の会が始まります。今期から、朝の会は菊池副牧師の担当でマルコによる福音書の話、夕べの会は黄剛牧師の担当でヨハネによる福音書の話になります。新しい思いで、聖書の学びを始めましょう。

○次回の洗礼・転入会式は、四月二日のイースター礼拝です。その日に受洗・転入会をご希望の方は、入信記を書いて、一月二十七日までに、牧師あてご提出ください。

四国使り

いつの間にか冬を迎えております。天の御国の近くを旅したような幸いな日々から四国へもどると急な寒さと旅の疲れで風邪をひいて体調がまだもどらず・・・余り遅くなってもいけませんので頑張つて書きお送りいたします。

今年の五月、旅先の滋賀県にて信仰書の目録を眺めていた私に主が「ヨシユアの出された一冊の本、ヨシユアの如く牛きん」この本と共に主は私を兵庫県へとお招き下さいました。T教会は今とても大きな教会となっておりますがT牧師先生は特に地方の教会で苦勞している小さな教会に手を差し伸べて「共に主の栄光を願わす教会となつて成長しましょう」というお考えのもとに「教会作り・共同研修会」に尽力されていらつしやいます。研修費も宿泊費も食費も全てT教会が出して下さつて六日間を目で見て、体験し研修を受けて学びの中から主にお示しいただいた事をご自分達の教会に持ち帰り教会作り役立てて下さる事が教会員一同の喜びなのですと話して下さいました。「教会作り」こそは近年私が最も学びたいと切望していた事で驚きました。主は全てをご存知だったのです。

私は言われた通り自分の旅費のみを持って出席致しました。感謝献金は主がお示し通りに致しました。行きも帰りもこの様な事が現実にあるのかとその教会を包み込んでいるアガペーの愛の中で主を賛えておりました。そして、日本の教会にこれ程の真実をアガペーの愛を苦勞し

ている他教会のクリスチャン達に惜しみなく助けの手を差し伸べており、信仰と希望の基軸に足をとどめてそれを実践している教会が実在している現実に驚きました。この現実こそが私がT教会から学んだ最初の驚嘆すべき尊い科目であり主を賛えました。

初めてお訪ねする教会の少し手前で私を待つておられたのか一人の女性が「先生！」と走り寄つてすぐに「お疲れ様でございました」と荷物を受け取つて下さいました。

この時、私は「この人は主からの特別訓練を受けて居られている」とうれしく思いましたが、私達はすぐに御霊の一致を感じ喜びあいました。三人の女性牧師と同室でしたがここにも主のご配慮による御霊の一致に私達は初めて会つていられるにもかかわらず心が平安と喜びに満たされた六日間でした。

男性の牧師先生達もとても謙遜で信仰の熱い人達でした。朝六時からの早天祈祷会に始まりお食事後には研修会やナイトセルの見学ミッションセルリーダー会の見学、ラビングケアグループの見学会、重要な学びはT先生のご指導による研修会・近隣の教会を訪問・メントリング子育てセミナーの研修私はこの学びでこれまで心につだけ有る疑問の部分の謎が見事に解けた事は驚きであり、主の聖名を喜び賛えました。

田端良忠

(次号に続く)

聖書の会へどうぞ

1月9日(水)

●朝の聖書の会(10時)

「喜びはあなたにも」

マルコ一章1節

菊池 美穂子 副牧師

●聖書の夕べ(19時)

「はじめにことばがあった」

ヨハネ一章1節〜18節

黄允澁 副牧師

次週礼拝

●第一礼拝(午前9時30分)

讃美歌 今日もまた新しく、121番

説教 「私から離れてください」

聖書 ルカ5章1〜11節

説教者 黄允澁 副牧師

●第二礼拝(午前11時10分)

讃美歌 411番、85番

詩篇 52篇

説教 「人の不誠実と神の誠実」

聖書 ローマ3章1〜8節

説教者 吉村和雄 牧師





新年礼拝 (午前10時)

讃美歌 今日もまた新しく

121番

説教 「主イエスの洗礼」

聖書 ルカ3章15～22節(新約 P106)

司式 石川一見

説教者・聖餐司式 吉村和雄 牧師

前奏曲「雪はつもり」 R.J.ヒューズ

○「今日もまた新しく」 聖公会讃歌16番

1. 今日もまた新しく 鳥 歌い 喜ぶ
み言葉に生かされて たたえよう この日を
2. 草木にも 恵み満ち 雨露の 輝き
神の國しのぼせる たたえよう この日を
3. ひとすじの光より 生まれでる この朝
声高くほめ歌え み手による この朝 アーメン

○ピアノによる讃美

「主の恵の中で」 作曲：原田 信次郎

○聖歌隊による讃美

「主イエスを愛する」 J.S.バッハ

主イエスを愛する身こそ幸なれ
心の痛みも 病もいやさる
我が主は愛もて おのれを給いぬ
ああ 我れ主よりなごかは離れん

○讃美歌 121番

1. 馬槽のなかに うぶごえあげ
木上の家に ひととなりて
貧しきうれい 生くるなやみ
つぶさになめし この人を見よ
2. 食するひまも うちわすれて
しいたげられし ひとをたずね
友なきものの 友となりて
こころくだきし この人を見よ
3. すべてのものを あたえしすえ
死のほかにも むくいられで
十字架のうえに あげられつつ
敵をゆるしし この人を見よ
4. この人を見よ この人にぞ
こよなき愛は あらわれたる
この人を見よ この人こそ
人となりたる 活ける神なれ アーメン

聖餐曲「なぐさめ」 E.ワグネル

後奏曲「たえにうるわしき」 D.グスタフ

